

令和6年度事業報告書

公の施設名称	おかざき自然体験の森
施設の設置目的、役割	良好な自然環境を保全しつつ、自然を活用した各種の体験を通じて環境教育の推進を図る（条例 第1条より）
施設の所在地	岡崎市八ツ木町池ノ上 10 番地
施設規模	敷地面積：41ha 建物面積：383.91 m ²
指定管理者	名 称：コニックス株式会社 所在地：名古屋市中村区太閤四丁目 6 番 22 号 代表者：代表取締役 吉田 治伸
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

指定事業については岡崎市直営時からアレンジを加え、全ての事業を実施した。

小中学校の環境学習授業は6校(①岩津小4年生 93 名、②細川小 1 年・特別支援 109 名、③竜谷小 4 年生 14 名、④常滑市小鈴小(市外) 5 年 25 名、⑤新香山中 1 年 150 名、⑥井田小 4 年 172 名)それぞれ、学校側と綿密な打ち合わせを行い、ニーズに合わせて指定管理者独自のカリキュラムを作成し、実施した。

市民活動団体とは昨年同様コミュニケーションを密に取り、今まで同様のイベントに加え、新規の告知も市政だよりも今年度も記載してもらうことができた。

岡崎ホームニュースに「炭焼の会」が紹介され、数件の問い合わせがあり、若者の参加が増えた。

なお、市民団体の講師の都合や高齢化による中止や、天候による中止が数回発生した。

自主事業については春の風まつり、夏の水まつり、秋の里山感謝祭、冬の空まつり、十三夜の音楽会&お月見など、四季折々のイベントを開催した(残念ながら秋の里山感謝祭のみ雨天中止)

森の教室、四季のまつり、森の歴史、昔ながらの農業体験(稲作、さつま芋づくり、お茶摘み等)、市民活動団体イベント、ボランティア活動(5 社実施)など積極的に実施できた。事故が発生したため、各種イベントやボランティア活動等の実施に伴う安全対策を再構築した。

通年参加型の自然環境学習プログラムとして 2 年目を迎えた「おかもりファミリークラブ」の参加者は 13 家族で、子ども 15 名保護者 14 名合計 29 名となり「自然の中で自ら考え行動できる」を目標に 4 回のプログラムを実施した。また、今年度も各回の講

師には市民活動団体や専門家の協力をお願いし楽しくて有益な内容になった。

令和5年度に策定した「森づくり方針改定 2023」の進捗確認や情報共有のため、令和5年度に引き続き、岡崎市環境政策課の担当者、日頃体験の森で活動している市民活動団体の皆様、ハツ木町内会、森林組合及びビオトープ・ネットワーク中部をメンバーとする「森づくり連絡会」を組成し、名古屋大学大学院高野教授をファシリテータとして、各市民活動団体間で進捗確認や情報共有を行いながら、来年度以降のおかざき自然体験の森のあり方をみんなで考えるワークショップを行った。(合計2回実施)

また、新活動エリア(里山ミニモデルづくり)をボランティア活動として発足した(全25回活動・延べ178名動員)

近隣の企業ボランティアにも積極的に参加の呼びかけを行い、三菱自動車新人研修(56名)、ジェイテクト花園(51名)、FUJI(46名)、ジェイテクト岡崎(36名)、三菱自動車硬式野球部(30名)の5社から参加があった。また、東海光学は、令和7年度の参加に向け下見を行った。

学生の里山保全活動の担い手育成のため「里山ビルダーボランティア」を企画し、人間環境大学の准教授谷地先生の協力の下、同大学内に募集チラシを配布させていただいた。その結果、2名の学生が参加し計7回にわたり活動を実施し、長年の懸案だった陽だまり橋の撤去及び迂回路が完成した。来年度も新たな里山保全を実施していく。

加入3年目となる「西三河生態系ネットワーク」、愛知県生物多様性サポーターズ」により、愛知県自然環境課や他団体とのネットワークが構築でき、「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金(305,000円)」及び「あいち生態系ネットワーク形成事業交付金(426,390円)」の活動補助金申請を行った結果、指定管理料以外での自然共生活動を実施することができた。

あいち生物多様性保全活動担い手講座の講師は、弊社の田澤が務めた。

令和5年度までに指定管理業務の仕様書に記載された次の資格は全て取得できた。

必須：自然観察指導員、プロジェクトワイルド・ウェット指導者、ネイチャーゲームリーダー

推奨：生物分類技能検定(3級・4級)、ビオトープ管理士

しかし、これだけに満足せず、各所で実施される研修や情報交換会に参加し、更なる知識の吸収及びネットワークの拡大に努めた。

テレビ番組に3回取り上げられ、近隣だけでなく東海地方に存在を知らしめることができた。(東海テレビ：花咲かタイムズ、チャント、中京テレビ：24時間テレビ)

地元ケーブルTV mics も数回取材があった。

また、SNSの活用が本格化し、Facebook、Instagramのフォロワー数が増えている。

YAMAPという登山アプリを見てご来場される方が増えている。

県道に看板も設置され「看板を見て」来場する方も増えている。

(2) 事業実施に対する自己評価

今年度も各種指定事業や環境学習授業に関しては体験の森指定管理者独自の工夫を加え職員自らの企画で推進できた。

- ① 昔ながらの農業体験：計 15 回（稲作、さつま芋、お茶）
- ② 森の教室：指定事業：計 4 回（ヘイケボタル観察会、夏の虫、秋の虫）
提案事業：9 回（生きもの探しとヤゴ教室、標本づくり、丸木舟で外来種駆除 2 回、池の底の生きもの調査、おかもり FC4 回）

- ③ 春の風まつり（竹とんぼ）、夏の水まつり（竹水鉄砲・流しそうめん）、秋の里山感謝祭（モルック）、冬の空まつり（凧揚げ）と四季の色々な自然の遊びに触れ合う機会とするべく、企画内容を昨年よりさらにブラッシュアップし来場者の大幅なアップにつなげることができた（なお、「秋の里山感謝祭」は悪天候のため中止）

今後も常に来場者増に貢献できるように工夫して行きたい。春まつりと秋の里山感謝祭（荒天中止）は、市民活動団体の出展もあり協働事業となった。

今年度も「森の十三夜のおんがく会&お月見」を有料で開催した。日本古来の十三夜のお月見の風習の中、雅楽と創作舞踊を行い、昼間の体験の森とは全く違う雰囲気イベントが開催できた。

- ④ 森の歴史：1 回（信玄道）

岡崎市と岩津松平 600 年の会で整備していただいた信玄道を郷土史家の解説の下、散策した。岡崎市主催であったが、集客とイベント保険の加入を行った。

郷土史家の中根氏の解説が非常に楽しく、参加者の皆様は非常に満足されていた。今後も岡崎市と協議し、継続を検討する。

- ⑤ イベントの企画提供の実施

- ・名古屋青年会議所（JC）の家族会のイベント企画の依頼を受け、親子で楽しめるイベントを企画し、施設利用料のほか、イベント企画を提供、販売できた（田植え、ピザ窯、フィールドビンゴ、モルック体験）。
- ・昨年度から利用いただいている「そらまめキッズツアー」からも夏休みのイベント企画を依頼され、おかざき自然体験の森ならではの体験を提供した。（水の生きもの探しとザリガニ釣り、標本づくり、クワガタ探検）。
- ・大学のサークル仲間の餅つき体験も昨年に引き続き提供した。
※来場者の満足度向上のためのコンテンツをこれからも拡大し PR 強化をする。
※今後は企業ボランティア活動においても、保全活動作業だけでなく、家族で楽しめる体験型イベントの企画提案をしていく。

- ⑥ 資源の循環のための物品販売の拡大

指定管理者開始当初から木炭や竹細工（竹トンボやパタパタ）、草木染手ぬぐい、お茶、もち米、わら等に加え、旬のタケノコ（4 月）、薪（サクラ、ナラ）、危険木・倒木や危険木の販売（玉切りにして奏林舎に持ち込み）、竹林整備で出た竹材を活性炭工場に持ち込み活性炭と交換するといったことなどに取り組んできた。

また、9 月から「おかざき農遊館」にも木炭、薪、わらの委託販売を始めた（商品説明にもおかざき自然体験の紹介を入れて施設のアピールも実施）。

薪に関してはホームページにも掲載し、インターネットで「岡崎 薪」で検索するとおかざき自然体験の森のホームページが上位に出てくるようで、軽トラの荷台分

(350 kg) や 100 kg単位での購入者も現れた。

⑦ その他（課題）

おかざき自然体験の森で実施する各種イベントの参加者は増えているが、一般の来場者がやや伸び悩んでいる。

※イベントの開催は限度があるが、一般の来場者をいかに増やすかが課題である。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

令和6年度の来場者は 20,509 名で、対前年実績比 105.3%となり、開所以来初の 2 万人を上回ることができた。

利用団体としては、初年度からの「森のクラフト」「切り紙のワークショップ」福祉関係団体「イエナ式探求塾」「NPO 母里ん子」「きのこの会」「ビオトープ・ネットワーク中部」「ボーイスカウト」「企業内グループ」の来場があった。

昨年に引き続き、大阪のツアー会社「そらまめキッズツアー」営利目的での利用が1回あった。(夏休み)

管理棟での来場者受け付けではスタッフが必ず対応し、来場時間、人数、お住まい、施設の認知方法等をお伺いするようにし、現在の見どころや今度のイベント予定等の案内を積極的に告知している。

(2) 利用状況に対する自己評価

Facebook や Instagram 等の SNS の更新頻度を上げることにより、フォロワーが少しずつ増加し、来場者の創出につながっている。

令和4年度から、来場者やイベント参加者向けにアンケートを実施してニーズを把握し、今後のイベントやプログラムの開発の参考にしているが、令和6年度の途中からアンケートの母数を増やすために、QR コードで回答できるアンケートも開始した。

「おかもりファミリークラブ」も2年目となり、みんな仲良く活動する中、リピート参加者が新しい参加者を引っ張っていく姿が見られ、参加者の成長や満足度がさらにアップし、後に述べる「里山ミニボランティア活動」にも参加するようになった。

「森づくり方針 2023」で決定した「里山ミニボランティア活動」をスタートさせ、親子で現代の里山を真剣に考える来場者が増えた。(今年度の活動は全 25 回、延べ参加数 178 名に及び、子どもも大人も対等に意見交換する姿が見られた)。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額（円）
収 入	指定管理料収入	指定管理料一精算還付（修繕、輸送費）	27,092,560
	利用料金収入	施設占有利用料、指定提案事業参加料	207,900
収入 計			27,300,460
支 出	直接管理運営費	直接人件費、光熱水費、消耗印刷費、修繕費、清掃等委託料、保険料等	24,198,937
	（うち修繕費・輸送費）	※精算項目	1,141,045
	その他	本部経費、租税公課、当期剰余金等	1,960,478
支出 計			27,300,460
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

指定管理者3年目となるが、光熱水費や物価の上昇、人件費の上昇がある中、指定管理料及び利用料収入等の範囲内で管理運営が遂行できた。

精算項目である修繕費についてはほぼ予算どおりに運用できたが、学校関係の環境学習授業で利用する輸送費（環境教室バス経費）は3校の利用で配車台数（8台）が多く、さらにバス料金の値上げ（昨年のほぼ2倍）により大幅にオーバーしてしまった（約25万円）。

修繕費については年度当初に管理棟の工作室、和室及び工作棟の照明をLED照明に更新し、今後の電気使用量の削減につなげた。

※工作棟のLED照明器具は、弊社本社社屋の改装に伴い交換撤去されたLED照明を再利用したためコスト削減になった。

利用料収入に関しては今年度から指定事業及び提案事業の参加費も計上し、ほぼ指定管理者プロポーザル時の予算どおりの収入となった（昨年度は指定事業及び提案事業の参加費を自主事業収入にしていた）。

今年度は、なごやJCの家族会で農業体験（田植え）、散策、モルックとピザ窯を使っでの懇親会を企画・実施するほか、大学のサークル仲間での餅つき体験など、付帯設備を利用したイベントが実施できた。

4 利用者アンケート結果

(1) 実施概要

実施期間	回答者数	アンケート実施方法
2024 年 8 月から 12 月まで	一般・イベント参加者 34 件	一般 管理棟受付での声掛けによる収集、イベント参加者にアンケートのお願い。 ※森の教室は別途次回の参考用
2024 年 8 月から 12 月まで	森の教室参加者 26 名	指定・提案事業参加者（家族）
2024 年 8 月から 12 月まで	QRコードによる回答者 12 名	QRコードによるアンケート
2025 年 3 月	おかもり FC 参加者 15 家族	全 4 回の最終日に回答

※アンケート回答者には「おかざき自然体験の森」オリジナル缶バッジをプレゼントした。

(2) アンケート結果概要 ※結果については別紙のとおり

アンケート内容

- ① プロフィール 性別・年齢・お住まい（市内・県内・県外）
- ② 来場者特性 来場回数・好きな場所・希望イベントプログラム
- ③ 職員・施設 職員の対応・施設に対するご意見
- ④ 当施設のイベント・ボランティア活動に関する質問 興味の有無・開催内容・曜日等
- ⑤ その他ご意見

(3) アンケート結果に対する自己評価

職員に対する評価は「満足」と「やや満足」で 94%となっている。

（普通を入れると 100%）

QRコードによる回答者は他の回答者よりやや辛口の回答となっている。

※これらの方々の評価を正当な評価と考え改善して行く。

もともと自然が好きな方が来場されているのか、施設に関してのご意見や要望はほとんどなかった。

※イベント参加以外の方々がもっと来てもらえるように施設の告知方法をもっと効果的に実施できるようにしたい。

豊富な媒体の活用…チラシ、看板、SNS、市の広報、市のPRタイムの活用、メディアへのパブリシティ強化。

ひとりで来ても楽しめるセルフプログラムの開発・提供を考える。

5 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

公共施設ならではの公平性の担保と民間企業ならではの接客・接遇強化を心掛け、安心・安全・快適な施設運営を全スタッフで心掛けて運営した。

施設内で活動する市民活動団体の皆さんもサービス精神が芽生えてきたと思われる。

来場者をお迎えするという意識で施設の安全・美化に努め、写真募集等の双方向コミュニケーション企画をもっと導入する必要がある。

施設内の自然素材の加工品等をさらに増やしお値打ち価格で来場者に提供できたこともサービス向上につながったと思われる。

337,027 円の売り上げ（昨年対比 223.5%）があった。

※木炭、竹炭、薪、干しシイタケ、寒茶、ハーブ茶、もち米、茶油、スウエーデントーチ、竹とんぼ、森の味噌、朝どれタケノコ等。また伐採した竹を納品して活性炭も仕入れたがあまり売れなかった。

また、管理棟の照明を LED 照明に交換したため非常に雰囲気の良い古民家になったので、お茶摘みボランティアでハーブ茶を作った後、その場で飲めるハーブ茶の販売を始めた（古民家カフェの雰囲気）。

管理棟の入り口にある石うすに花を生け「ウエルカムフラワー」を飾ったり、夏の暑い時に縁側に庇を設置し、ちゃぶ台を置き、のんびりできるスペースを設けた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

来場者に積極的にお声がけをすることによりニーズを把握することに努めた。

まだまだ、ここで何ができるか知らない来場者が多いため、管理棟内のレイアウトを変更し自然観察の呼びかけや販売品用の棚を設け PR を強化し、自由工作の材料を充実させた。

管理棟に来場した方はもちろん場内で散策している方にも積極的にお声がけするようにした。

来年度から施設利用受付簿の改良を行う。（「何で知ったか」を選べるようにする、SNS 告知）

(3) 苦情対応等に対する自己評価

来場者のご意見に対しては真摯にお伺いし、岡崎市の所管課（環境政策課）に報告した。

【来場者及び近隣住民からのご意見の例】

- ・ 郷南入り口の「ペット禁止」看板の移動…民地に建てたため体験の森内に移動
- ・ 炭焼の会の活動に対してのご意見…炭焼広場での焚火やお茶会の禁止（作業のみ可）
- ・ カラタチの小路の大木伐採についてのご意見に対する回答…リスが渡れるのを確認
- ・ 北斗台の給水塔へのスロープの雑草の除去…森林組合の作業に追加
- ・ 北斗台よりの大木が茂って日陰になる（ご訪問し状況確認）…次年度の予算を見て対応をすることとした。

- 信玄道の道中に案内をもっとつけてほしい…管轄外のため市に要請
- 薪割り機の故障について…部品購入し修繕済み

指定管理者だけで対応できることは即、改善を実施し、定例会等で岡崎市に報告した。

また、指定管理者だけでは対応できない事項については早急に岡崎市に報告し、指示を仰ぐようにした。